

次世代ベンチャーの先頭に立ってほしい

大阪大学大学院教授・博士(医学) 川崎和男

「素直で企業家精神に溢れている」
川崎和男は石田について自信をもってそう語った。その目はまるで愛弟子の顔を語るかのようだ。

川崎は米週刊誌「ニューズウィーク」で2004年、2009年と「世界が尊敬する日本人100人」に2度も選ばれ、グッドデザイン賞審査委員長も務める著名なデザイナーである。そのデザイナーとしての実力は国際的にも認知度が高く、過去に社外デザイナー・ディレクターとして米アップルコンピュータと契約し、アップルの製品のデザインを手がけていたこともある。

その川崎を慕っていた石田との出会いは、石田がフリービットを創業してまだ間もない頃、川崎に面会を申し込んだことから始まった。

「いつも本を読んでいます。大ファンなのでぜひ会ってください」。石田からの熱い想いに応じた川崎は、石田のまっすぐな企業家精神に心を打たれた。

「金もうけしか考えないような若手経営者は絶対に失敗します。しかし石田



Kazuo Kawasaki

3人で食事することもありました」。
川崎は楽しそうにそう振り返る。

石田は課題や悩みを抱えた時、川崎にアドバイスを求めることも多い。「石田さんは、総合的に判断する力を持っている。出井さんや木

村さんをはじめ、自分の師の意見を聞いたら、それぞれを参考とし自分の中でまとめた上で考えを構築している。それが非常にうまい」と川崎は語る。

フリービットの上場後すぐに、川崎は「君の役目は何だ」と石田に問うた。その問いに対して「社員全員の夢を叶えることです。だから上場した時は泣きそうになりました」と答える石田を、川崎は今でも忘れないという。

「あの石田さんの目にうそはありませんでした。きつとすごい人になると確信しましたね」。

数多くの企業と取引をしてきた川崎は、企業の栄枯盛衰を見てきた。「ちよと成功しただけで、安心して、現状に満足した会社が潰れる傾向にある。ましてや、浮かれて高層ビルの最上階に社長室をかまえる経営者は必ず失敗

する」と語る川崎は、フリービットの堅実さを高く評価している。「何よりも石田さんの人間性が素晴らしい」。川崎は、ベンチャー企業の経営者を判断する際に、次第に石田と対比するようになった。

川崎は石田に「次世代ベンチャーの先頭に立ってほしい」と期待する。現在37歳の石田よりもさらに下の世代、その牽引役を石田に託した。そう期待する川崎は、自分の愛弟子も石田に託している。川崎が勤める大阪大学大学院の博士号取得の修了生である。彼が就職の時期になったとき、一言の言葉と共に迷いなく石田を紹介した。「石田さんについていけ」。

石田は今でも川崎に教えを乞いに来ることがあるという。「成功したら、おごつて会わなくなる経営者も多いが、石田さんにはそのような態度が全く見られない」と、どこまでも師を尊敬する石田を賞賛した。

最後に川崎は、熱くこう語った。「若者が経験する逆境は、たいいていこのことを先人が経験しています。石田さんは『三步下がって師の影を踏ます』という姿勢を誰よりも謙虚に努めており、時代を冷静に見据えています。これからも若手企業家の代表として、時代の先頭に立ってほしいですね」